Arts Towada
十和田市現代美術館
Towada Art Center

十和田市現代美術館のシンボルマーク・ロゴタイプが決定しました。

「完結していない、変化していくようなもの」を基本的考えとし、十和田の「十」と無限大を示す輪「∞」を組み合わせたものです。現代美術館を核として街や人、アートなどが、これから無限大につながっていく、限りないイメージをシンボル化したものです。

デザイナー　東泉（ひがしいずみ）一郎 さん

1958年東京都生まれ。多摩美術大学卒。2002FIFAワールドカップの演出デザインなどを手がける。

【作者コメント】

▶ 単純でも記憶にこびりつく図形
▶ 十和田の十とTOWADAのT　そして輪＝和
　その先の限りないイメージをシンボル化
▶無限の輪＝これからいろいろつながっていける輪

８月４日に市民文化センターで商店街「フラッグ・アート・プロジェクト」の当日制作イベントが開催されました。本プロジェクトは市内小・中学生を対象に開催されたものです。参加者60人は桜や馬、ナガイモなどを自分の気に入ったキャラクターに変化させて、作品にしていました。

フラッグアート原画展

「十和田市現代美術館のキャラクター」をテーマに、市内小・中学生に作ってもらったフラッグアートの原画約220点を一堂に展示します。

と　き　９月22日㈯～10月８日㈪
ところ　市民文化センター
問い合わせ先　企画調整課（☎㉓5111内線162）

芸術文化ゾーンだより⑫ ～作品紹介① ジム・ランビー～

市で整備を進めている野外芸術文化ゾーンについての話題を紹介しています。

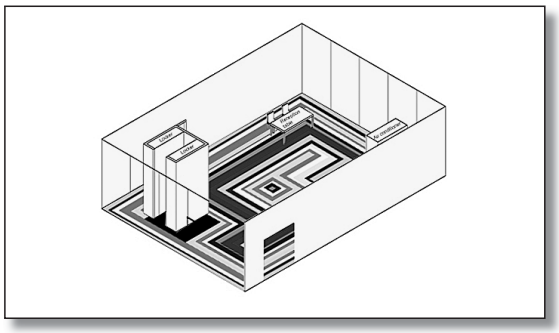
現代美術館の入館者が最初に立ち寄るエントランスホール。この床面に広がる、原色を用いた派手な縞（しま）模様の世界がジム・ランビーの作品です。これはランビーの代表作のひとつ「Zobop」（ゾボップ）をアレンジしたもので、元となる作品は1999年に発表されました。建物の構造に沿って、床一面に何色もの蛍光ビニール・テープを「入れ子式」に貼りつめて幾何学的な模様を描いています。そして、部屋全体を脈打たせる視覚的なリズムを作り出しています。

ランビーは、1964年イギリス北部のグラスゴー生まれ、世界の現代アート界で、近年注目を浴びている作家の一人です。安価な素材をモチーフに、空間や身近なものを豊かに変容させた作品を作ることで知られています。素材を加えたり差し引いたりするのを得意としています。

彼は青年時代仲間４人でバンドを組み、ヴィブラホンを担当していましたが、87年に解散。90年から94年の４年間、スコットランドのアート・スクールで学び、現代美術家としての活動をスタートさせました。90年代後半から多数の国際的な展覧会で発表を始め、05年にはイギリス最大の美術賞であるターナー賞にノミネートされました。レコード盤などを作品の素材として選んだり、作品タイトルにバンド名やアルバム名を引用したりするなど、音楽が今でも彼の作品のバックボーンとなっています。　「Zobop」も、「床のビニールテープがベースラインを奏でるベースとドラムのよう」と、本人が語っています。

日本でも昨年４月に東京目黒のミズマアートギャラリーで初個展を開催、ことしは10月16日まで東京オペラシティアートギャラリーで展覧会を開催するなど、活発に活躍しています。

問い合わせ先　企画調整課（☎㉓5111内線162）



十和田市現代美術館への提案作品
“Zobop”, Courtesy the artist The Modern Institute/
Toby Webster Ltd,Glagow